■ LPガスに関する国際セミナーの実施

(財)エルピーガス振興センターは、平成7年以来毎年、経済産業省の支援を得て産ガス国を含むLPガス関係諸国との協調と対話の促進を図るため、国内外の有力者を招聘し、「LPガス国際セミナー」を定期的に毎年開催しています。

近年の国際セミナー開催の概要は次の通りです。

	期　間	主なテーマ
第13回	2008/2/28-29	変化する世界のLPガス需給－更なる需要拡大に向けて－
第12回	200872/22-23	変化が予想される世界のLPガス需給動向－生産見通しと需要開拓－
第11回	2006/2/23-24	高エネルギー価格時代におけるLPGの今後について
第10回	2005/2/24-25	競合エネルギー下のLPガス業界の抱える課題
第 9回	2004/2/26-27	供給多様化とグローバルな視点から見たLPガスの位置づけ
第 8回	2003/2/20-21	LPガスの安定供給と国際市場動向について

◇ 「LPガス国際セミナー 2008」

平成19年度は、第13回目にあたり、『変化する世界のLPガス需給―更なる需要拡大に向けて―』をテーマとして「LPガス国際セミナー2008」の名称で、下記の通り開催しました。

記

1. 日　時　　：　平成20年2月28日（木）～29日（金）
2. 場　所　　：　第一ホテル東京(新橋)　会議場
3. テーマ　　：　変化する世界のLPガス需給－更なる需要拡大に向けて－
4. 参加国・団体　：　サウジアラビア、カタール、クウェート、中国、韓国、インド、ブラジル
   ポーテン＆パートナーズ社、パービン&ガーツ社、BWガス社、
   世界LPガス協会
5. 開催状況：

セミナーはLPガス生産国及び消費国からの招聘者、各国大使館、経済産業省、LPガス業界関係者等が出席し、当センター理事長が議長となって議事を進行しました。

参加者は毎年増加傾向ではありましたが、エネルギー価格が上昇を続ける中、一方でLPガスの供給能力が中期的に拡大するという状況下で開催された今回のセミナーには、これまでを大幅に上回る約420名が参加し、各講演の後、講演者と会場出席者の間で幅広い意見交換・討論が行われました。また、昨年よりセミナーの最後に実施して好評であった、研究機関、生産国、消費国等、全ての海外講演者を交えた「総括質疑応答」においても、世界のLPガス産業の今後のあり方について活発な討論がなされ、意義深いセミナーとなりました。

また、セミナー初日終了後のレセプションでは、経済産業省資源エネルギー庁から北川資源エネルギー部長に歓迎のご挨拶を頂き、盛大なレセプションとなりました。

6. 講演内容

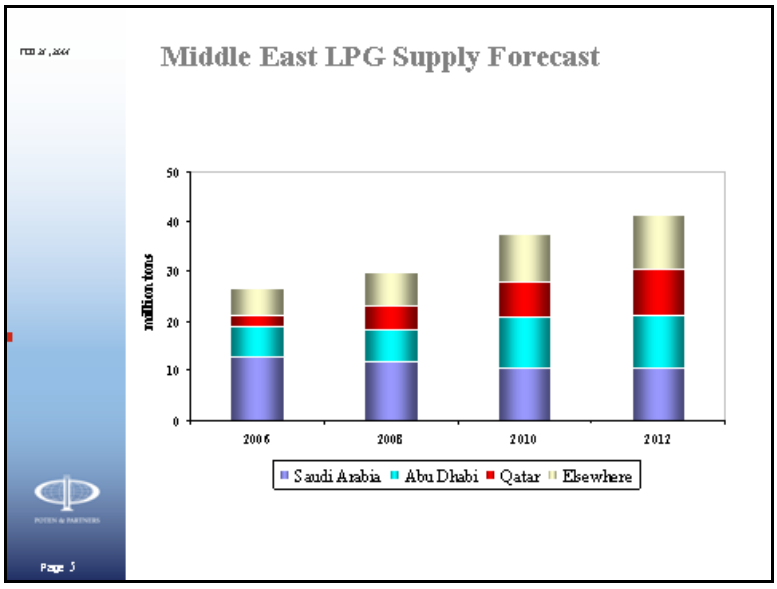
1)『基調講演』 英国ポーテン＆パートナーズ社： LPGコンサルティング部長 C. シェリー氏

①2008年に大幅な世界のLPG供給・取引増加はない。

②中東・西アフリカ等の開発は遅れが出ている。

③ブタンの需要は東（中東からアジア）向けでバランスし、西（米国等）に向かう。

④価格面ではCPが引き続き支配的だが、西向き/東向きの二重価格となる可能性がある。



2)サウジアラビア（サウジアラムコ社）：

サウジペトロリアム東京支社長 ワリード・アルベダイウイ氏

サウジアラムコ社 LPGマーケティング・マネージャー アーメッド・アル・フヘイド氏 他

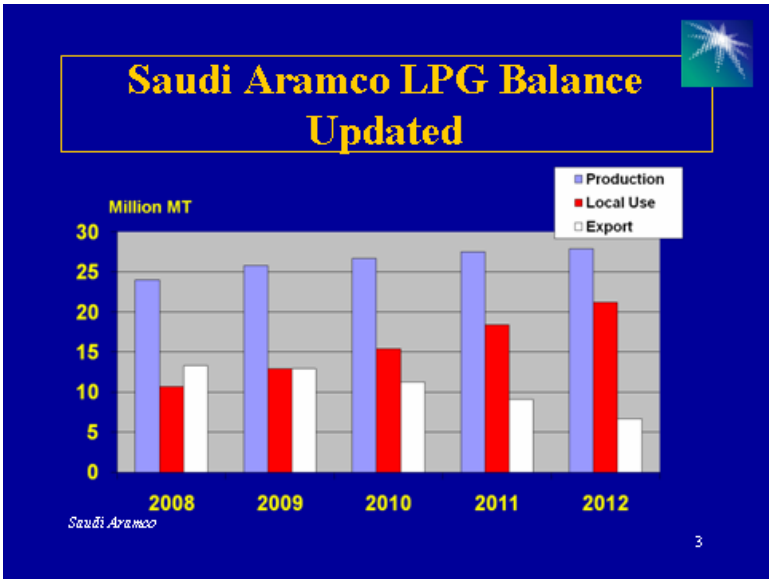
①LPG生産は、2008年で約2，400万トン2012年まで順調に増加。

②サウジの国内需要は、石化プラントの立ち上がりが2010年まで遅れる。

③サウジの輸出余力は、約1，300万トンで2009年まで推移する見込み。

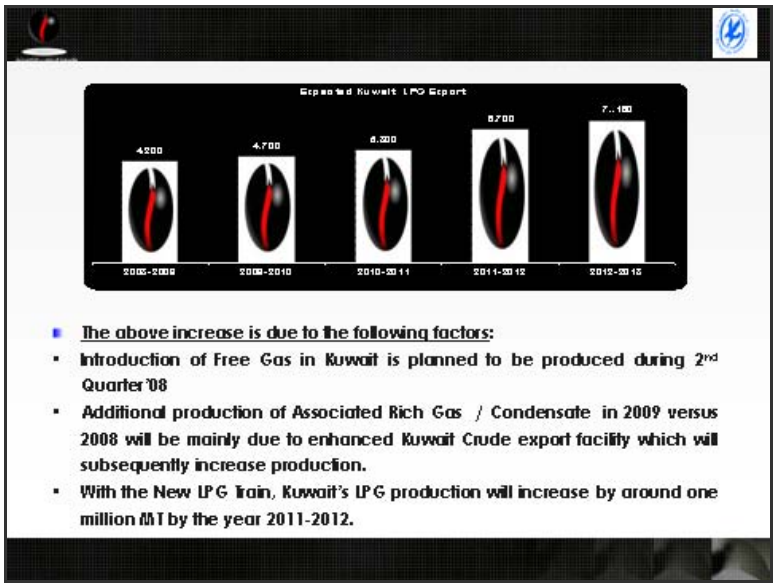
④LPG価格はLNG価格との差が縮小して競争力が改善するので、将来の深刻な供給余剰はない見通し。

⑤CPは市場を妥当に反映しており、将来に亘り影響力を維持可能。



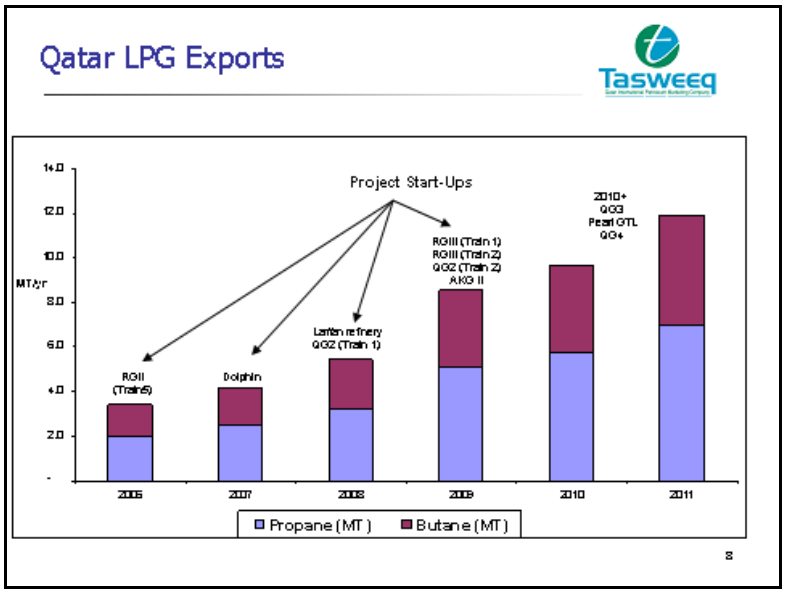
3）クエイト（KPC社）： ナフサ・ガソリン・LPG国際販売部長　モハマド・アル・ハドラク氏

各種プロジェクトの推進により輸出量は、2008－9年420万トンから2012年には700万トンに拡大。



4）カタール（タスウィーク社）： 最高経営責任者　アリ・アル・ハマディ氏

輸出量は現状の400万トンから、2010年には1，000万トンに増加。



5）米国パービン・アンド・ガーツ社： 上級副社長　ケン・オットー氏

石油化学原料市場の変容とLPG産業への影響度合いの分析。供給増大を吸収できる北米のエチレン生産用需要は設備増強ではなく原料選択の柔軟性による。今後の供給増大をどこまで吸収できるか不透明な部分もある。

6）世界LPガス協会： 専務理事　ジェームス・ロックオール氏

気候変動・C02 排出問題に対し、LPガスの世界規模での消費拡大は大きく寄与する。業界にとってのチャンス。

7）中国（広東油気商会）： 事務総長　ヘレン・リャン氏

①LPガス消費は増加するが、国内生産も増加するので、輸入増加は頭打ち。

②天然ガス/LNGや石炭DMEとの関係においては、供給地域の棲み分けやガス・ミックスという形で相互補完関係で共存・発展する。

8）韓国（SKガス社）： LPG操業部長　ジャスティン・リー氏

①LPガス市場は、成熟市場だが緩やかで堅調な伸びは維持する。

オートガスは政府の促進策や、LPガス車のパワーと燃費効率の改善により一定の普及確保。

②需要拡大の候補としてはで都市ガスカロリー増強用、石油化学用、北朝鮮向け供給が考えられる。

9）インド（IOC社）： LPG操業主席部長　シリ・ランバ氏

①価格は政府助成制度に依存。主用途は家庭業務用で供給はIOC社以下の国営3社が強い。

②都市部以外のインフラ整備が進めば、将来に亘り生まれ続ける潜在需要がある。

10）ブラジル（ウルトラガス社）： 事業開発部長　リカルド・カルロス氏

ブラジルのLPガスのシリンダー国内販売の現状と課題・成熟及び発展市場の比較・考察。

11）ノルウェー　BWガス社： 駐日代表　パトリック・オニール氏

①LPガス船腹市況は、当面乱高下が続く。

②市況低迷と素材価格高騰で、スクラップ化の進行と新造船の用途変更が起こってきている。

しかし、他用途の船舶市場の例もあり、好転も十分あり得る。

（調査研究部　伊藤総括主任研究員）